

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：22028

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇低学年では、楽しい学習に一生懸命に取り組み、思ったことを言葉で伝えたり、積極的に挙手をしたりする姿が見られた。</p> <p>◇高学年では、友達と自分の考えを比べて共通点や相違点を見付けることができた。また、既習事項と本時の学習をつなげて学習の見通しを立てることができた。</p>
	<p>◇低学年は、話を聞く力が弱く、最後まで集中して話を聞くことに課題がある。</p> <p>◇高学年は、自ら問いを立てる力が弱い。また、自分の考えを表現することを苦手とする子も多い。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p> <p>◇自分の得意なことなど長所を理解している子が多い。</p> <p>◇互いのよさを知り、認め合う姿が増えてきた。</p> <p>◇褒められている、認められているにも関わらず、自己肯定感が低い子が多い。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

自分の言葉で伝える力

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) 教師が互いに授業を見合う雰囲気高める。 ⇒子どもにとっての“見られている”感覚の高まり ⇒TTとして授業をサポートし合う⇒子どもの力につながる</p> <p>(2) 研修を通して、教師の教育実践や教育理念を共有し、教師が頑張ろうという気持ちで日々を過ごすことで子どもたちに還元していく。</p> <p>(3) “子どもたちが問いを生む”授業を意識して、授業をデザインしていく。</p>	<p>◇子どもが「～したい」という意欲をもつ→行動 →変化を生み出した喜びを手ごたえとして心に残せるように</p> <p>◇委員会活動での活動の充実…“みんなで”を意識 ・既存の活動にとらわれない新しい活動を推奨 ・発信する場、伝える場の設定</p> <p>◇ふれあい活動の充実 ・ペア学年によるふれあいオータム、ふれあいフェスティバル、ふれあいランチ(交流給食)の充実</p>
<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について</p> <p>◇授業ではオクリンクプラスやクラスルームなどを活用して考えの共有を図ったり、ドリルパークやテストパーク、デジタル教科書を使用して自分に適した方法で学習に取り組んだりできるようにする。</p> <p>◇児童会活動でもクラスルーム等を活用して活動成果の集積や効率的な話し合いにつなげるようにする。</p> <p>◇宿題や長期休みの課題としてドリルパークやテストパークが適切かどうか、使いながら検討していく。</p>		

<本プログラムの実行に向けて>

